



Monthly

さいがただより

National Hospital Organization Saigata Medical Center

2019年7月 Vol.25



ミスバショウ (妙高高原いもり池)

発行：独立行政法人国立病院機構 さいがた医療センター 院長 下村 登規夫 <https://saigata.hosp.go.jp/>
 〒949-3193 新潟県上越市大潟区犀潟 468-1 TEL:025-534-3131 FAX:025-534-4824

〈基本理念〉「良い医療を安全に、心をこめて」

合言葉は “Passion and Spirit” (情熱と魂)

さいがた医療センター 精神科診療部長 佐久間 寛之
 庶務係長 宮 健之

当院の一般精神科医療は、小規模・多機能・高規格医療の目標を掲げ、アウトリーチの推進、急性期医療と専門医療の創設、治療抵抗性統合失調症治療、依存症や発達障害にも対応できる精神科専門医療のメニューを揃え、今まさに実行しているところです。

前述した目標のひとつである専門医療の創設にあたっては、Sai-DAT (Saigata Division of Addiction Treatment) と命名し、アディクション (依存症) 診療部門をスタートしました。2019年3月には新潟県内の依存症に関係する行政機関、医療機関、更生施設、自助グループなどのメンバーが一堂に会した「アディクションフォーラムin上越 テーマ：つながる」を開催しました。患者さん、ご家族、医療従事者、それぞれの立場からのメッセージを交えながら、春の始まりに希望とあたたかさが感じられた一体感のある会となりました。

フォーラム以降、上越圏域はもとより近隣地域などさまざまな団体から講演依頼をいただき、新潟県内のニーズの高さ、行政・教育分野においても依存症の対応に力を入れていることが窺えました。

本年度に入ってから、医療従事者の専門性の向上を目的として、アディクション研修会シリーズを計画しました。この研修は、対象を院内の職員だけにとどめず、近隣地域にもご案内してどなたでも参加可能にしており、端緒となる第1回目は2019年6月5日、神奈川県立精神医療センター医療局長の小林桜児先生を講師に迎え、120名収容できる会場には空席がほとんど見られないほど盛況となりました。現時点で第7回まで講師が決定している研修会が、院内の講堂ではまかないきれない状況になるのは時間の問題かもしれません。

当院は「入院患者さんは全スタッフの患者である」という考え方のもと、「現在当院で提供できる最高の医療を提供する」をモットーに努力をしています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



アディクションフォーラム上越
 テーマ「つながる」



アディクション研修会シリーズ

さいがた医療センター アディクション研修会のご案内

さいがた医療センターでは、アディクション分野のフロントラインに立つ講師陣を迎え、研修会シリーズを開催しています。医療福祉関係者を対象とした研修ですが、どなたでも参加できます。どうぞふるってご参加ください。

詳細はQRコードよりご覧いただけます。

https://saigata.hosp.go.jp/addiction/addiction_pg9.html



参加無料

「独立行政法人 国立病院機構 さいがた医療センター」

アディクション(依存症)診療部門

精神科診療部長 佐久間 寛之

当院では平成30年9月より依存症治療プログラムを開始しました。お酒の問題だけでなく、違法薬物や処方薬依存、ギャンブル依存など、依存症全般を対象に診療を行っています。ご本人、ご家族からのご相談はもとより、行政機関からのケース相談にも対応しております。

また発達障害・高次機能障害の診療も行っております。当院では精神科医・臨床心理士による検査とアセスメント、多職種チームによる介入を行っています。また高次機能障害については、脳神経内科と精神科が連携体制を取っています。お困りの方、どうぞお気軽に受診相談のお電話をください。

クロザピンの治療状況

薬剤科

平成30年8月より治療抵抗性統合失調症の患者さんに対してクロザピン治療を開始しました。現在24人の患者さんが服用しています。先月には1人の患者さんが治療経過が良好で退院しました。

令和元年6月新規0例、累計27例(7月1日現在)

神経難病医療

脳神経内科

当院の脳神経内科は80床あり、主にパーキンソン病・脊髄小脳変性症・多系統萎縮症・筋萎縮性側索硬化症の薬物調整・リハビリテーション目的の入院を受け入れています。

また、地域包括ケアシステムの実現に向けて退院支援に力を入れており、多職種間で協働するためにカンファレンスの充実を図り、患者さんにより良い援助・支援の提供を心がけています。地域における神経難病中核病院としての機能充実に努めています。

空床情報: 7月1日現在 11床

放射線画像診断の受入(共同利用)

診療放射線科

当院は、CT(80列)、MRI(1.5T)、そして上越地域では数が少ないSPECT装置を有しております。また、放射線画像診断医が常勤でおりますので、検査結果がすぐにわかります。

この画像診断体制で、国立病院機構の役割の1つ“地域での医療の提供”の一環として、地域の医療施設からの検査依頼もお受けしています。お急ぎの場合には当日検査にも対応しています。ぜひご利用ください。

6月実績: MRI 7件、CT 4件、SPECT 0件

認知症医療

心理療法室

精神科と脳神経内科及び内科の各担当医師が連携して、幅広い視点から原因となる病気の特定に努めております。

また、当院にはCTスキャン、MRIが設置されており、診療放射線技師や読影をする放射線画像診断医が常駐しておりますし、脳波計を用いたより精密な検査や臨床心理士による神経心理学検査も実施可能です。お気軽にご相談ください。

デイケア

リハビリテーション科

当院では、社会生活機能の回復を目的として難病や精神障がいを持つ人のデイケアを実施しています。

難病デイケアは、毎週月・水・木に実施しており、身体機能の維持・向上だけでなく、仲間づくりも支援しています。

精神デイケアは、毎週月曜日から金曜日まで、精神障がいの回復途上にある人が社会の中で自立した生活ができることを目指して実施しています。見学や相談、参加希望の方はお気軽にご相談ください。

訪問看護

看護部

地域で安心して生活していただくために入院時から関わらせていただき、医師、ケースワーカー、作業療法士と連携しながら、病状や服薬に関する支援、家族への支援など、利用者の方に必要な支援を行っています。訪問は看護師の他、必要に応じてケースワーカーも同行し、書類作成や社会資源の利用などのご相談についても支援させていただきます。

重症心身障がい医療(ショートステイ)

療育指導室

当院の重症心身障がい病棟では、「医療型短期入所」(通称:ショートステイ)の受け入れを行っています。

当院のショートステイは、在宅で生活されている重症心身障がい児者を対象に、申込み頂いた一定期間を病棟でお過ごし頂き、食事の他、ご利用の曜日等によっては入浴や日中活動も提供しています。また、日帰り利用や他の通所事業所の利用後に宿泊を伴う利用等も可能となっています。

利用される方や地域のニーズ等も取り入れ、利用しやすいサービスが提供できるよう取り組んでまいりますので、お気軽にお問い合わせください。

ショートステイ: 6月延べ 20日 空床情報(長期利用: 7月1日現在 2床)

**外来担当医表**

←こちらのQRコードよりご覧いただけます